

令和元（2019）年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」
（住まい活動助成部門） 中間報告

団体名

特定非営利活動法人 小杉駅周辺エリアマネジメント

活動のテーマ

高層分譲マンションに居住する高齢者の孤立化防止サポート 事業の仕組みづくりと運営活動

9月までに達成できた事項(箇条書き)

1. 当該事業（エリマニー事業）の詳細企画の策定
2. 全体スケジュール・予算配分・人事計画策定
3. 研修委託先決定
4. 専任職員の選考
5. 先行事業（特定1棟のみに対する事業実施）の実施計画策定、実行開始
6. 研修実施（2019年8月31日）

今後の活動予定と令和2年3月末時点の達成予定項目

1. （進行中） 専任職員の採用、稼働開始
2. 11/1～ 先行事業実施
3. 12/1～ 先行事業の実施内容検証、本事業の事業計画再検討、確定、実施に向け調整
4. 1月中旬～ 本事業開始、以降は随時運用

令和元（2019）年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」 （住まい活動助成部門） 中間報告

団体名

特定非営利活動法人 小杉駅周辺エリアマネジメント

活動のテーマ

高層分譲マンションに居住する高齢者の孤立化防止サポート 事業の仕組みづくりと運営活動

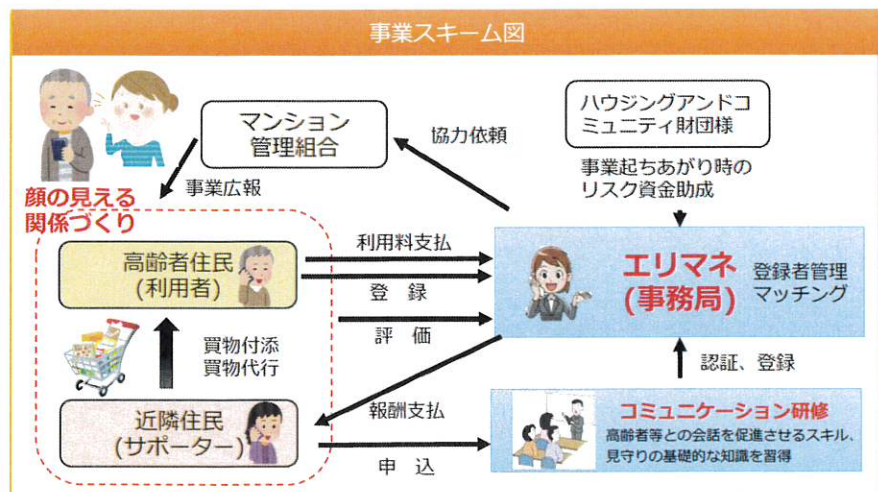
助成対象活動に至った理由や背景

NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメント(通称:エリマネ)は、タワーマンションが林立する川崎市武蔵小杉エリア(住民:約45,000人)において、地域住民のコミュニティ促進を行う団体です。昨年、高層マンション住民を対象にしたアンケート結果では、70代の4人に1人は「1日の平均会話時間」が「30分未満」、また、60代、70代の約30%が「近所で会話する人」が「全くいない」状態であることが分かりました。こうした領域は民生委員の活動が必要ですが、当エリアはマンション5,000戸に対して民生委員が2名の状態であり、孤立化した高齢者を把握できていない状況で、新しい仕組みの構築が必須であると思われました。そこで当団体が、高齢者を中心とした住民のちょっとした困りごとを解決する御用聞きを行うことで、コミュニケーションを意図的に発生させ、顔の見える関係づくり、孤立化の防止・または解消に寄与することを着想しました。

9月までの活動の進捗状況

1:ニーズ把握

まずはニーズのある「御用聞き」の内容を確認しようとアンケートをとりました。回答者100人あまりの中で多かった回答は「粗大ゴミの運搬」「電球交換などの軽度の日曜大工」といったものが上位を占めましたので、そのニーズに応えられる協力者(エリマネーさん)を確保するため、有料の料金体系としました。



2:コミュニケーション活性化手法の検討

この事業は作業請負が目的ではなく、困りごとを聞き、解決する中で顔の見える関係性を構築し孤独の防止・解消に繋げるのが目的ですので、エリマネーさんにコミュニケーション能力をある程度身につけてもらう必要があります。そこで、高齢者とのコミュニケーションサービスを事業展開している株式会社ころみに協力を仰ぎ、ビジネスマナーのほか、雑談や会話を弾ませるスキル、高齢者の認知能力を評価するスケールについて学ぶセミナーを受講してもらうことにしました。

3:協力者向けセミナーの実施

上述までの企画・調整で事業スキームを固められたので、8月31日に第一回のセミナーをエリマネー候補、当法人の理事を対象に行いました。



表 CANDyの各項目が反映する神経認知領域

項目	神経認知領域	該当	
		N	%
会話中に同じことを繰り返し質問してくる	記憶障害	22	95.7
話している相手に対する理解が曖昧である	人物認識	19	82.6
どのような話をしていても関心を示さない	興味・関心の喪失	21	91.3
会話の内容に広がりが無い	思考の生産性や柔軟性の障害	22	100
質問をしても答えられず、ごまかしたり、はぐらかしたりする	取り繕い	21	91.3
話が続かない	会話に対する注意持続力の障害	22	95.7
話を早く終わらせたいような印象を受ける	会話に対する意欲の低下	18	78.3
会話の内容が漠然としていて具体性がない	換語困難	18	78.3
平易な言葉に言い換えて話さないや伝わらないことがある	単語の理解の障害	21	91.3
話がまわりくどい	論理的思考の障害	18	78.3
最近の時事ニュースの話題を理解していない	社会的出来事の記憶の障害	18	78.3
今の時間(時刻)や日付、季節などがわかっていない	興味・関心の喪失	20	87.0
先の予定がわからない	展望記憶/予定記憶の障害	23	100
会話量に比べて情報量が少ない	語彙力の低下	18	78.3
話がどんどんそれて、違う話になってしまう	論理的思考の障害	19	82.6

※大庭輝・佐藤眞一・数井裕光ほか(2017) 日常会話式認知機能評価 (Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDy) の開発と信頼性・妥当性の検討. 老年精神医学雑誌, 28:379-388 を一部改変して引用.

実際に会話するワークショップを行うなど受講者からは概ね好評で、是非積極的に進めたい、機会があれば参加したいという理事以外の声もありました。また高齢者への対応として、大阪大学で研究されている「日常会話式認知機能評価(CANDy)」も研修の中で紹介し、義務とはしないものの、高齢者への御用聞きを行なった際は意識してもらおうエリマニーさんにはお願いすることとなりました。

4: 先行トライアル実施準備

11月1日から1ヶ月、会員マンション1棟を対象に先行トライアルを実施します。現在チラシ制作を行い、広報を開始しています。

今後の活動予定

前述した11月の先行トライアル終了後、活動内容のフィードバックを経て事業内容の最終的な詰めを行い、2020年1月より対象地域をエリマネ活動地域全体に広げ、本格的に事業を開始する予定です。